

事務局の金子補佐が資料 10-1(COPUOS 科技小委)を補足資料の概略説明まで含め、18分弱で丁寧に説明した後、18分強の質疑応答があった。(スペースデブリのガイドラインが設定されたのに加え、「宇宙活動の長期的継続性」を検討する為のWGが設定された事についての質問が出された。我が国の宇宙基本法と外交方針に関わる重要な質問ではあるが、外務省の責任者でなければ答えられない様な課題であり、金子補佐は苦勞して対応していた。また、国家機密にもなりかねない此の様な議論を、公開の場で行う必要は無い様にも感じた。)

池上委員長:(マイクを通さない発言なので、良く聞こえない。)プラス今度、今回新しいイガラ(?)をキズイテタン(?)だけれど、後、(イ)を見ますとネ、(イ)の方は国際スペースウェザーイニシアティブで、で、(ア)の方は宇宙活動の長期的持続性ってムニャムニャ。(ア)の中にも含まれるようにも見えるんですけど、此れ違うんですか。

金子補佐:エエト、此れは議題としてはですネ、別々に立って御座いまして、当に今のご指摘の通りですネ、非常に(ア)はですネ、スコープが非常に広いと云う事になっていて、概念上は(イ)の概念も当然に含むものかナと云う風に理解しますが、何れにせよ、当に(ア)の議論の中で、そう云った事も含めて議論すべきじゃないかと云うご指摘あった様な気がしています。

森尾:あの、其の今のアレで、スペースウェザーのマグネティック・データ・アクイジションってネ、(ハウリングが生じてマイクを

切ったので、全く聞こえなくなった。)

金子補佐:此れは各国が持って御座います、所謂磁気を観測する様な装置、あの、幾つか御座います。此れをネットワーク化してですネ、地球規模って云うか、まあ、地球の全球的に磁気の状態を把握しようとする、そう云う。其れ等の観測システムの情報の統合化を狙ってシステムと云う風に理解して御座います。

森尾:エエト、日本では何処でやっています。

金子補佐:日本では九州大学が中心になって、装置を持っていて、メインシステムと云うか、そう云ったものを其処で運用しようとしている取り組みで御座います。

青江:此れを金子君に聞くのは何か妙、あの、一寸おかしいかも知れないんだけど、「各国のスペースデブリ低減についての取組の状況」が、各国からズーッと報告されて、日本も報告したと云う事ですけども、日本の取組の、どう言いましょうか、世界的に見てですネ、優等生かナと。

金子補佐:エエト、其処はエー、まあ、あの、私の理解の範囲で御座いますけれども、ご案内の通りあの、此のガイドラインにつきましては IADC・図スペースデブリ調整委員会と云った枠組みの中でですネ、議論が積み重なって来て出来たもので御座います。で、JAXA は其の主たるメンバで御座いまして、非常に指導的な役割を果たして来た。で、指導的な役割を果たしてきた JAXA としては、当然に斯う云ったガイドラインをですネ、先陣を切ってやって行く立場からもですネ、非常にあの、JAXA としての自主的な、自主的と言うか独自の

ですネ、あの、ルールで以て重視してると云う風に、即ちお答えとしては非常に優等生であると云う事であると理解します。

青江:あの、私の認識は、デブリ低減ガイドラインと云うものよりも、日本はより頑張ってるよと云う感じだと思んですネ。ですから、其の点に於いて、そんな、其処まで頑張ってる国と云うのは他に無いんじゃないかと。だから、其の意味で優等生なんじゃないかと。

金子補佐:当に優等生。そう云う、仰る通りだと思います。

青江:それからもう一点ネエ、まあ、兎に角まあ、日本の状況はそんなあの、取組の状況はそんなとこだと思んですけれども、もう一点ですネエ、フランスから提案があったと云う「宇宙活動長期的持続性」と云う新規議案、此れの、どう言いましようか、フランスが狙ってる処の真意とでも言いましようかネエ。此れ何だろうか。こんな非常に漠とした、フワッとした話を、新たに此処で、またこう、議論しようとする訳ですヨネエ。だから、どうも良く解らんと。まあ、唯一考えられるのは、スペースデブリ低減と云うものをもっと、あのまあ、強めて行こうとも言いますかネエ。其の辺をやっておかないと、これから所謂長期的に見た時に色んな処に支障が出る、其処の処をですネエ、ガイドラインをもっと強めて行こうと云う、まあ其れだけじゃなくて、もう少し色んな問題を塗(まぶ)しながら、だけど、ポイントはデブリに在りと、でも言いましようかですネエ、そんな処かナァと思っただけけれども、提案したフランスは、一体全体何考えとんだと。云う処は廊下で訊いたら何か言

ってました？

金子補佐:エエト、残念ながら私自身一寸あの、廊下で訊ける様な状...あの、参加出来なかったの、私の理解で御座いますが、此の議論、即ちフランスから提案あったもので御座いますが、ご案内の通り個の議題についてはですネ、あの、COPUOSの前々議長であったブラッシュェ、彼が非常に真面目にと言うか、取組んでいるもので御座いまして、此れが議題化されるに当たっては、実はあの色々経緯があって、最初の議論のきっかけは5年以上前、例えば2005年位からですネ、斯う云ったアイデアについて、色々彼は非公式に言っている居たと云う風に聞いて御座います。で、やっぱりその想いとしてはあの、2007年にはデブリ・ガイドライン、出来ました¹ですけれども、其の前にはですネ、矢張りあの、デブリの問題について其れ程国際的に今程重要とされる様な認識が無かったので、そう云った注意喚起の...あの、今もあってですネ、当時彼は非常に真面目な...と云うか真面目と云うか当に持続可能な活動...

¹ 此の説明から推論すると、デブリを主眼に議論の場の設定を企図した活動であるが、デブリ・ガイドラインが制定されて役目を終わらせるより、更に継続的に議論する場を維持すべきと考える様になったのだろう。確かに、静止軌道についての割当調整も、デブリ低減ガイドラインも制定されたが、地球観測衛星は太陽同期軌道が輻輳状態になる事が目に見えて居るし、準天頂衛星軌道の国際調整も必要になって来ると思われる。此れから発生するだろう課題に備え、議論の場を維持しておく価値はあると思う。

青江:要は、フランスは真面目一方でやっとな。斯う云う話ですかネ。極々素朴に、真面目にやっとな。

池上委員長:て言うかネ、此れやっぱり衛星破壊にも関係してると思う。COPUOSではそもそも平和利用ですヨネ工。衛星破壊の事も此れは対象にしてるか、其れがきっかけになってるって事は無いんですかネ。あの、要はですネ、今の青江さんの話の通り、我々コントロール出来るものって余り無いですヨネ工。放射線をコントロールする訳に行かない²訳でしょう。宇宙環境を維持すって云ったって。

青江:あの、ウェザーの方がネ。

池上委員長:エエ、エエ、いや、あの、いやそうじゃなくて最初の(ア)の方ですネ。其の、長期的...サステナビリティの話...サステナブル何とか何とかって、今流行りの言葉ですヨネ

² 「COPUOSはそもそも平和利用」とは何を意味しているのか。平和利用が非軍事か被侵略かの議論は延々と続いている。また、此の報告はCOPUOS本会議ではなく、科技小委の結果であり、政策・外交の要素を出来る限り抑え、科学技術の側面に重点を置くものである。交渉の駆け引きよりも「起こっている事、これから起こるだろう事について、技術的な観点から互いに理解を深めよう。」と云うものだろう。勿論其の背後には政治的・外交的意図が存在するし、其の意図が見え見えの時も多いだろう。此の場合は、衛星破壊の禁止とデブリ低減ガイドラインは別個の議論ではない様に思う。意図的か無知に因るものかの違いはあっても、デブリを発生すると云う技術的には同一の事象であろう。尚、「宇宙活動の持続性=宇宙環境の維持」ではないと思う。

工。ですから何をサステナブルにするのか。例えば、衛星破壊を止めましょうって、此れはまあ分かりますヨネ。で、デブリの掃除やりましょうって、まあ、JAXAは未だ其れ言ってるかどうか分かりませんが、まあ、其れも解らん訳ではない。あと、出来る事は何かあるんですか？

青江:そうですネ工。と云う事からすれば、長期的持続性と云う事について議論しましょうと云う事は、とりも直さずデブリについて議論しましょうと

池上委員長:ウン、其れは分かりますヨネ。エエ。

青江:言っとると略(ほぼ)同義なんじゃないか。其れをフランスが、此れをサステナブル何か知らんけれど、そう云う風な言葉で以て包み込んで、新規提案、新規議題にしようとするのは、何か斯う、考えがあつての事なんじゃあないでしょうか。何かあるのかネ工って云う、それだけの話なんですネ。

森尾:中国がどっかへムニャムニャ。あれは2007年の勧告以前ですか？

金子補佐:前で御座います。で、其の同じ年に、確かあの、急速に斯う云った議論が進んで成立に至ったと云う風に...

森尾:ガイドラインが出たのはあの後？

金子補佐:左様で御座います。

森尾:で、其れをもっときちんと議論しましょうって云う事で、ムニャムニャ。

青江:だから其れは、非常に極々真面目に宇宙の将来を考えてやっとなのか、あのフランスがそんなに真面目かネ工とか、良く解りませんと。だからどうなんですかって聞いただけなん

です。

金子補佐:はい、其の点は引き続き一寸あの、分析を...分析と云うかあの、出来る限り情報収集に努めたいと思います。

青江:はい。

池上委員長:そういう点で言うと(イ)の方はネ、2番目の方は地球への影響だから、其れは色々やり様があるんじゃないかって感じがしますヨネ。

青江:あのー、確かに此れを踏まえてなんですけれども、斯う云う COPUOS の場でのスイセイブン(?)の議論で云うのはまあ、勿論あの、一番大きなのはエイサク(?)の、中国エイサク(?)の話だと思いますが、またブツカッテ(?)来ましたネエ。で、そう云う風な事で非常に大きな問題になるかって云う事だけは間違いない。で、タルン(?)は、やっぱり此处でグッと国際的に強いイニシアティブを取る様な努力、あのー、我々はあの、色んな事を、日本は率先してやっとなる様な国ですからネ。そう云う国としては国際的な場に於きましての一種のイニシアティブ、より提言を受けての。其処はもっとまあ、外務省とも良く相談して、今後のアクティビティ、強めて行ったら良い³んじゃないかと云う風に思いますけどネ。あの、非常に良い、日本があのもあ、活躍できる場でもありますしネエ。

³ 外務省と良く相談するのは良いが、活動を強めるのが良いのか、もっと慎重に進めるのが良いのかはわからない。日本と云う国家の長い存続を狙うと云う究極目的は明白であるが、其の為に掲げる目標や手段は如何様にも選択できる。其の議論が無い。

池上委員長:あの、私もおんなじ、あの、こないだ云ったの 17 回でした、16 回か。行って、で、あの、APRSAF これからどうするかって云う話の中で、あの、一方では中国が主体になるあすこが動いてると。で、あのー、どうもアフリカの方にも色々進出しようとしているって話がある中で、あの、どちらかって云うと今迄距離を置いて来たその、国連の、あの、国連が主体になってる COPUOS とネ、もう一寸上手い連携関係を結んで行った方が日本にとって得じゃないかって感じを受けたんですけどネ。で、そんな様な点から、今回どうだったんですか⁴。何か、前回よりは色々進んでる様な感じもするんですけどネ。

金子補佐:そうですね、あのー、この COPUOS の場と云うのは、矢張りあの、各国...まあ宇宙...各国が一場に会する場、矢張りオールオーバーな場なのでですネ、リージョナルな活動をですネ、あの、どんどんプロモートする為にもですネ、斯う云った場で積極的にあの、我が国の状況、或いは我が国の考え方、更には青江委員ご指摘の様にですネ、我が国の、エー、可能な部分でのですネ、積極的なイニシアティブ⁵って云うのを発揮して行くと云う、非常にあの、重要な場であろうと云う風に思ってます。

池上委員長:あの、アフリカの参加も結構あったと、オブザーバで

⁴ 質問内容が全く推測できない。

⁵ 「可能な」とはどんな意味なのか。「無理矢理にでも積極的に働き掛ける。」と言わなかった事は良いが、「可能な」でも上限が見極められない。「適切な」の方が好ましい。

出るんですか。

金子補佐:はい、あのー、アフリカはですネ、あの、丁度ですネ、今迄無かった様に聞いているんですけども、アフリカ諸国に於ける宇宙関係の会議をですネ、昨年末に開催してと云う、其の状況がご報告あった⁶と。此れまで余り、比較的アフリカ諸国についてはですネ、あの、そう云った活動、見られなかったんですけど、新たな一つの動きとしてあるのかナと云う風に感じて居ります。

受けが見委員長:アフリカはアレですよネ、経産省と企業が衛星の売り込みに行ったり、或いは新聞ですとあの、電気メーカーもアフリカに色々進出⁷しようとする話もあるから、斯う云った

⁶ 説明資料(参考)の(15)項「静止軌道…」に「発展途上国が静止軌道上に安価で公平なアクセスが可能となる様に、特別の配慮を行なう事の必要性などの指摘があった。」とある。静止軌道＝赤道地帯の国々は、恰も領空権の様な気持で自らの権利を主張している様に見える。国連の会場が南北問題の鬱憤の捌け口、ガス抜き要素も気に止め置く必要がある。日本の国民から集めた税金を、「発展途上諸国の国民の幸せの為にドンドン使って良い。」と宇宙基本法や宇宙開発基本計画に書いてある訳ではないだろう。

⁷ 「経産省と企業」と云うのは SJAC の調査団の事だろうが、調査団の目的もご存知の上での発言だろうか。また、電気メーカーの進出は、中国や東南アジアの労賃が高騰した後に低賃金の労働者を求めると云うものだろう。然らば、宇宙は何の為にアフリカ進出するのか。アフリカ諸国の福祉向上とか、人道的支援と言うのではあるまいが、何を想定しているのだろうか。

面でも、あの、日本が出来る範囲と云う事になるかも知れないけれど、今、非常にタイミングとしては良いムニャムニャ、しかも APRSAF 始まるしネ。何か其の辺で、ムニャムニャ、国際担当なんですから、あの、積極的に進めて欲しい。

金子補佐:そうですネ。あの、日本全体としてあの、関係省庁等々とですネ、情報連絡密にして、日本として最も良い恰好ですネ、そう云ったものを進めて行きたいと思います。

池上委員長:はいどうぞ。

青江:UN-SPIDER の 2009 年の活動状況報告があったんですけど、具体的にはどんな事をやってるんですか。

金子補佐:エエ、具体的にはですネ、あの、ご案内の通りあの、UN - SPIDER の機能として幾つかあるんですけども、一つにはゲートウェイ、一つにはブリッジ、一つにはファシリテイと。此の3機能があると云う風に整理して御座いますが、即ちあの、最初のゲートウェイと云うのは基本的には会議、あの、...

青江:2009 年活動状況報告があったって書いてあるからネ、その一、SPIDER としてどんな活動と云うのが為されましたかと云うのを掻い摘んで教えてくれりゃあ良いんですけどネ。

金子補佐:済みません、一寸記憶の...あの...調べた範囲で、記憶の範囲で、一寸承知御座いませんので、後程ご報告差し上げたいと、申し訳御座いません。

井上:或る種新しいメンバーなもんで、背景を良く知らないの質問してる処があるんですけど、斯う云う種類の日本の宇宙での活動に対して、国連との窓口って云うのは此れは、あの、

取り纏めは外務省になる？

金子補佐: エエ、左様で御座います。今回のデリゲーション・ヘッドもですネ、外務省、ウィーン代表部のですネ、小溝大使がデリゲーション・ヘッドで御座います。

井上: で、まあ、あの、此の間宇宙基本法だとか宇宙基本計画って云う、国として当に外交に関しても宇宙を確り見て行こうって云う様な事が色々言われて来たと思うんですけど、今回に向けては、何かそう云う点での新しい反映みたいのはあったんでしょうか。

金子補佐: エエトあの、そう云う面ではエエトー。そう云った意味では新しさと云うのは、あの、従前やってる事を強化してる部分についてですネ、一所懸命説明すると云う事かなと思うんで、す・が、エエト、まあ、当に委員長から先程ご指摘あった様にですネ、日本として得意な部分とかですネ、今やってる事を如何にその上手くそう云った外交、宇宙外交、基本計画で言われてる其の宇宙外交の考え方に沿って出来るかと云うのを、エー、やってくと云うのが課題であろうかと思ってます。

青江: 何の変化も無かったって事ですネ。基本法のヘイタン(?)の前は、.....ネエ。

金子補佐: エエト、あの、私の理解はあの、APRSAF の活動自体をですネ、基本計画を踏まえてですネ、あの、...

青江: やるべき事ですか、コウボクサイヨウ(?)って事ですか。

池上委員長: 其れどう云う事? 基本計画...どう云う事ですか。基本計画は日本のものですからネ。

青江: 基本計画は、ヒュウ(目標?)6本でしたっけ、あの、何か柱立てとるじゃないですか。宇宙外交と云うのを麗々しくドーンと立てとるじゃないですか。アア!!と思っと思ったら、何の変化も無かった⁸って云う。

池上委員長: ウ、ウーン。

青江: 云う事で、フカッチ(?)

池上委員長: だから...

青江: 云う事ですネ。

池上委員長: いや、でも、其れは若干...今宇宙外交って、国際やってるのは

青江: いえ、此の、此の、国連の COPUOS と云う、一つの国連の宇宙を満足(?)する一つの対応の問題として、その、基本計画の、まあ、ビフォー・アフターはどうですかって云う、...

金子補佐: そう云った意味ではあの、エエトー、宇宙基本計画、あの、昨年の本委員会、此れは昨年の本委員会になってしまいましたが、宇宙基本計画策定後だと言う風に記憶してま

⁸ 小職も同感である。受止めるべき外務省が受止め様を見出せないのが原因かも知れない。又は、基本法で打出した方針が、外務省の大方針と練成し難いのかも知れない。宇宙利用の能力を持たない国々に手段や技術を提供する事は良い事であるのは否定しないが、其れが国益に繋がる道筋が見えて来ないのである。更には、宇宙外交の予算が未だ付かない儘なので、其れが実現する迄は新たな動きが出て来ないのかも知れない。此の予算を従来の外務省予算枠から捻出するか、文科省予算枠から捻出するか、此れも極めて微妙な課題であろう。

すが、そう云った日本がやっている事についての、何ですかネ、新たな取組についてはあの一、良く良く COPUOS の場でも説明すると云う点は上げられるかと。

青江:いや、僕は、あの、やっぱりこれは外務省ですヨネ。本件の主宰官庁はネ。

金子補佐:はい、井上委員からご指摘あった様に、今回、あの、デリゲーション・ヘッドは外務省で御座いますので、そう云った処の下、より強化して行くと云う...

青江:主として外務省の問題なんですヨネ。

池上委員長:と云うかあの、アレですヨネエ。今、霞が関であの一、**国際⁹**と云う点で宇宙開発を見てるのは、あの、金子さんとただけですヨネ。あと、勿論外務省あるにしても。だから矢張り、今の質問についてはです...あの、寧ろ問題としては此方にある話じゃないですかネ。

井上:やっぱり**一緒に考えて¹⁰**かなきゃならない。

池上委員長:どっか他へ頼んでもネ。...いや、僕も他...国際について文句言う処あるかと思ったら無くて、ヘッヘッヘ、結局見たら、金子さんしか此の担当、**斯う云うポストあるって云うの此処しかないですもんネ。経産省にも無いし。...頑張るしか**

⁹ 「国際」の後に、「交流」が続くのでアレが文科省/JAXA で間違いのない処であるが、其れが自動的に「外交」に迄適用される事ではないと思う。

¹⁰ 外務省任せにするのではないと云う意味で同感である。井上委員のお気持ちには無い様であるが、此れが「主導権を取る良い機会だ。」と云う考えであつたら由々しき事態である。

ない¹¹ですネエ。...基本法を受けて。外務省寧ろ、外務省何かインプット入れてかないと、あそこ動かないから。やるしかないんじゃないですかネ。

金子補佐:ゴクヨ(?)して、アゴシ(?)踏まえて頑張っていきたいと思います。

池上委員長:フッフッフッフ。...宜しゅう御座いますでしょうか。...それではどうも有り難う御座いました。色々良いコメントいただきました。じゃあ次、その他...

(現状報告に進む。以下省略。)

¹¹ 外務省の場合、全てが外交を担当しているし、自らが担当するに相応しいと思わないものは、各省庁からの出向者を受け入れている。典型は経産省(ワシントン DC の日本大使館の公使を筆頭に多数)や防衛省(ワシントン DC のミリタリ・アタッシェを筆頭に多数)が挙げられる。経産省は国内産業の振興と輸出入管理が本務なので、外交の経済的側面に関して統括的な責任と権限を有する。文科省は国内に目を向けるのが本務の省なので、「国際部門」を設置して国際的業務を行う必要がある。他に無いなどと発言されたら、大変な誤解を産む事になるのではないか。